

カンボジアのビール業界について

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Lim Sovannarith)

はじめに

カンボジアのビール業界の歴史はそれほど古くはない。国連カンボジア暫定統治機構 (UNTAC) が統治をしていた 1993 年頃、多数の外資系ブランドビールが進出を果たし、40 以上のブランドが激しくシェア争いをしていた。しかしながら、現在では約 10 ブランド程度しか残っていない。

カンボジアにおけるビール市場は、隣国のベトナム及びタイと比較すれば規模は非常に小さいが、国内ではビールが人気である。現在、カンボジアで販売されているビールは、現地で醸造されているものと国外から輸入されたものが流通している。カンボジアにおける最大手は 1992 年に設立された Cambrew 社というデンマークのカールスバーグ社の子会社であり、Angkor ビール及び Bayon ビールという銘柄を醸造・販売している。次いで、1996 年に設立され、Tiger ビール・ABC ビール・Anchor ビール・Crown ビールといった銘柄を醸造している Cambodia Brewery Limited (CBL) がある。この 2 社の合計ビール生産量は、カンボジア全体の 82% を占めていると推計されている。

また近年は、新しいビール会社がカンボジア市場に参入しており、具体的には Khmer Brewery 社の Cambodia ビール、Kingdom Breweries 社の Kingdom ビール及び Ganzberg brewery 社の Ganzberg ビールなどがある。

今回はカンボジアにおけるビール業界について述べていきたい。

1. カンボジアビールの複合年間成長率

カンボジアの複合年間成長率 (CAGR) は 2009 年から 2013 年の間に 6 ~ 7 % に達している。世界の工場である中国の代替となる安い人件費が魅力であり、周辺の新興国の経済成長と相まって、急速な経済発展を果たし、多くの外国人投資家を引き付けている。また、カンボジアでは極端なドル経済が外国人投資家にとってメリットとして位置づけられている。

市場調査会社 Euromonitor International のビール市場に関する調査によると、2009 年~2013 年までの間で、カンボジアアルコール飲料の複合年間成長率は 13% となっており、2013 年のカンボジアのビール売上高は、アルコール飲料全体の 61% を占める約 2.85 億米ドルとなっている。

2. カンボジアのビール消費量

2011年、カンボジア全体のビール消費量は1.36億ℓで、国内で72%が醸造されており、東南アジア地域内における消費量は第6位である。なお、第1位はベトナムの29億ℓ、第2位はタイの18億ℓ、第3位はフィリピンの16億ℓ、第4位はインドネシアの2.36億ℓ、第5位はマレーシアの1.71億ℓとなっている。現在、1人当たりの消費量が増えており、現時点での1人当たりの年間ビール消費量は21ℓであるが、複合年間成長率9%を考慮すれば、2020年には36ℓになると予測されている。

2013年のカンボジア人口調査によると、カンボジアの人口は1500万人であり、平均年齢は25歳と非常に若い人口構成となっている。現在の若者はビールを好む割合が高く、特に男性は、祭や結婚式、パーティーなどでビールを飲む機会が多い。しかしながら、女性は夜あまり外出することが無く、またアルコールであるビールを飲むことも伝統的な要因によりそれほど多くはない。



(出所：<http://trifter.com/asia-pacific/vietnamese-people-drink-the-most-beer-of-southeast-asia/>)

3. カンボジアのビール価格

2014年、Finances Online のウェブサイトによれば、ビールが安い国トップ5の中で、カンボジアは第3位となっており、0.5ℓ瓶ビールの価格は0.68米ドルである。なお、第1位はウクライナ及びベトナムの0.59米ドル（小数点第3位以下を考慮した場合ウクライナのほうが低価格）、第4位はサウジアラビアの0.70米ドル、第5位はチェコ共和国の0.71米ドルである。



(出所 : <http://comparisons.financesonline.com/beer-prices-around-the-world-compared/>)

4. 外国におけるカンボジアビールのポテンシャル

現在、Cambodia beer は日本、マレーシア及びフランスに輸出されており、マレーシアへは毎月コンテナ1基、日本市場へは2、3か月に一度コンテナ船で輸送している。フランスへは2013年3月に初めて輸出され、今後は欧米やオーストラリア市場にも輸出する予定である。

一方、Angkor ビールは1994年に初めて日本市場に、1997年にはカナダ市場、1998年には米国及びフランス市場に先行して輸出している。



(出所 : <http://cambodianpage.com/city/phnom-penh/listing/cambrew-ltd/> and <http://www.phnompenhpost.com/business/brewery-answers-pm%E2%80%99s-call-product-exports>)

5. 国内でのポテンシャル

カンボジアでは、年間の祝祭日が30日弱設定されており、祝日には友人や家族と集まってレストランやバー、カラオケなどでビールを飲む機会が多い。また、近年の経済成長により、中間層・富裕層をターゲットにしたおしゃれなレストランやバーも増加している。金額が安いビールは気軽に飲むことができるため、今後の国民所得の増加に伴い、都市部のみではなく農村部でも消費の増加が見込まれている。



(出所 : <http://www.thecambodiaherald.com/cambodia/too-many-beers-for-beer-girls-3464>
and <http://www.somethingsbrewing.com/2011/01/whys-ice-beer/>)

おわりに

人口の増加及び経済成長により、カンボジアのビール市場は着実に拡大している。実際、ビール市場の成長率も 2013 年から 2018 年までの 5 年間で年間 14%の成長が予想されており、まだまだポテンシャルは高いと言える。一方で、飲酒運転による交通事故は深刻な問題となっており、カンボジア政府は 2015 年から 18 時から 20 時までの間、テレビ番組でビール広告を放送することを禁止するなどの措置が取られている。日本人にとっても非常に飲みやすいカンボジア産ビールが、今後カンボジア名物となることを期待したい。

【参考と引用文献】

1. The Phnom Penh Post News, “Beer brands battle for market share (ビールブランドが市場占有率のため競争)” (1995/05/05)
<http://www.phnompenhpost.com/national/beer-brands-battle-market-share>
2. Promar Consulting News, “Cambodia’ s vibrant beer market is growing (カンボジアの活気のあるビール市場の成長)” (2014/03/04)
<http://www.promarconsulting.com/company-news/down-the-hatch-beer-drinking-in-cambodia-is-on-the-come-up/>
3. The Phnom Penh Post News, “Angkor to tap export market (Angkor ビールが輸出市場で先行)” (2010/05/13)
<http://www.phnompenhpost.com/business/angkor-tap-export-market>
4. The Phnom Penh Post News, “Local beer to be sold in France (地ビールがフランスで販売)” (2013/04/01)
<http://www.phnompenhpost.com/business/local-beer-be-sold-france>
5. Finances Online News, “Beer Prices Around The World Compared: The Cheapest, Most Expensive And Most Popular Beer Brands (世界中のビール価格を比較：一番安い、一番高い及び人気があるビールブランド)” (2014/06/01)
<http://comparisons.financesonline.com/beer-prices-around-the-world-compared/>